

平成22年3月期第2四半期決算発表 補足資料

平成21年10月29日
日本ガイシ株式会社

□ はH21/9修正発表値

□ はH21/5公表値 / 通期見通しはH21/9修正発表値を今回据え置き

	21年3月期 第2四半期累計		22年3月期 第2四半期累計		前年 同期比	21年3月期 通期		22年3月期 通期		前期比
	実績	構成比	実績	構成比		実績	構成比	見通し	構成比	
売上高合計 ＜海外売上高合計＞	1,523	100%	1,034	100%	68%	2,732	100%	2,250	100%	82%
単独売上高計 (うち輸出計)	977 (385)	100%	741 (267)	100%	76%	1,754 (644)	100%	1,600 (570)	100%	91%
グループ会社 NET売上高計	547		294		54%	978	66%	650	66%	
電力関連事業	361	24%	391	38%	108%	829	30%	860	38%	104%
単独売上高 (うち輸出)	283 (118)	29%	301 (129)	41%	106%	664 (269)	38%	680 (265)	43%	102%
グループ会社 NET売上高	78		90		116%	165	88%	180		109%
営業利益 (%)	31	(8.5%)	37	(9.4%)	119%	76	(9.1%)	80	(9.3%)	106%
セラミックス事業	797	52%	442	43%	56%	1,308	48%	925	41%	71%
単独売上高 (うち輸出)	455 (176)	47%	301 (92)	41%	66%	727 (246)	41%	610 (195)	38%	84%
グループ会社 NET売上高	342		141		41%	581	96%	315		54%
営業利益 (%)	198	(24.8%)	30	(7.0%)	16%	222	(16.9%)	70	(7.6%)	32%
エレクトロニクス事業	365	24%	202	19%	55%	596	22%	465	21%	78%
単独売上高 (うち輸出)	238 (91)	24%	139 (47)	19%	58%	363 (129)	21%	310 (110)	19%	85%
グループ会社 NET売上高	127		63		50%	233	71%	155		67%
営業利益 (%)	61	(16.7%)	△5	△5	-	30	(5.1%)	20	(4.3%)	66%

平成22年3月期 第2四半期累計期間 連結業績の要点

① 概況 前年同期比減収減益

セラミックス事業は世界的な景気低迷による自動車販売台数の減少により、自動車関連製品の需要が減少し減収減益。エレクトロニクス事業も半導体メーカーの設備投資減による需要減や景気低迷によるヘリウム銅展伸材やカープリンター用機能部品の需要減により減収減益。電力関連は国内 500KV の大口案件や NAS 電池の案件が上期に前倒しになったこと等により増収増益。

② 事業別業績概況

電力関連：前年同期比 30 億円の増収(為替影響△11 億円)。がいしは円高も国内 500KV 等の大口案件が集中し前期並みを確保。NAS 電池は堅調で案件の前倒し等もあり増収。機器配電は景気低迷による需要減により減収。利益は円高も堅調な NAS 電池やがいしの大口案件の集中により 6 億円の増益(為替影響△6 億円)。
 セラミックス：前年同期比 355 億円の大幅減収(為替影響△39 億円)。自動車関連は世界的な景気低迷による自動車販売台数の減少に加え円高影響もあり大幅減収。産業プロセス関連も景気低迷による客先設備投資の減少により減収。利益は物量減や円高等により 167 億円の減益(為替影響△6 億円)。
 エレクトロニクス：前年同期比 163 億円の減収(為替影響△8 億円)。ヘリウム銅展伸材は景気後退に伴う需要減により減収。半導体製造装置用セラミックス製品は半導体メーカーの設備投資が低調で減収。カープリンター用機能部品の物量減により減収。双信電機は情報通信インフラや産業機器向けの需要が低調で減収。利益は物量減に加え円高もあり 66 億円の減益(為替影響△3 億円)。

③ 為替影響

連結：売上△58 億円、営業利益△14 億円(前期 106 円→当期 95 円/\$、162→128 円/ER)
 単独：売上△23 億円、営業利益△16 億円(105→97 円/\$、163→132 円/ER)

④ 連結範囲

連結子会社数：前期 56 社→当期 54 社、
 持分法適用会社数：前期 3 社→当期 3 社

平成22年3月期 通期 連結業績見通しの要点

① 概況 前期比減収減益

電力関連は堅調なものの景気低迷の影響を受け自動車関連製品、半導体製造装置用セラミックス製品、ヘリウム銅製品等の需要が低調なことに加えて、円高影響もあり前期比で減収減益となる見通し。

② 事業別業績見通し

電力関連：前期比増収(為替影響△16 億円)。がいしは国内 500KV の大口案件や中国市場での需要増等により円高によるマイナスを吸収して増収。機器配電は景気低迷による需要減により減収。NAS 電池は海外向けの物量増により増収。利益は円高と機器配電の落込みを堅調ながいしと NAS 電池でカバーし前期比で増益の見通し。
 セラミックス：前期比減収(為替影響△72 億円)。自動車関連は需要減に加え円高影響もあり大幅な減収。産業プロセス関連も客先設備投資計画の減少等により減収。利益は物量の大幅な減少や円高影響等により前期比で大幅減益の見通し。
 エレクトロニクス：前期比減収(為替影響△15 億円)。ヘリウム銅展伸材は上半期の落込みが大きく、また円高影響等もあり減収。半導体製造装置用セラミックス製品は在庫調整が一巡し半導体メーカーの設備投資も回復基調にあるが本格的な回復に至らず、また円高影響もあり減収。カープリンター用機能部品のプリンターの販売台数減による物量減により減収。双信電機は情報通信インフラや産業機器向けの需要が引続き低迷し減収。利益は物量減や為替円高の影響により前期比で減益の見通し。

③ 為替影響

連結：売上△103 億円、営業利益△17 億円(前期 104 円→当期 93 円/\$、153 円→129 円/ER)
 単独：売上△30 億円、営業利益△19 億円(101 円→93 円/\$、145 円→130 円/ER)
 未確定月の為替前提→ドル 90 円、ユーロ 125 円(連結 10 月以降、単独 12 月以降)

④ ROE 4.3% (前期比△3.8%)

⑤ 配当見込み：中間 8 円、期末 8 円の年間 16 円の予定。

⑥ 連結範囲：連結子会社数：前期 56 社→当期 54 社、 持分法適用会社数：3 社→当期 3 社

セグメント間売上消去 **-0.3**
 為替レート(円/\$) **106**
 為替レート(円/ER) **162**

-1.1
95
128

-1
104
153

-
93
129

営業利益	290	19.0%	60	63	6.1%	22%	328	12.0%	47%	150	170	7.6%	52%
単独 営業利益	145	14.9%		24	3.2%	16%	133	7.6%	36%		80	5.0%	60%
経常利益	289	19.0%	50	58	5.6%	20%	315	11.5%	45%	160	180	8.0%	57%
単独 経常利益	161	16.5%		43	5.8%	27%	150	8.6%	40%		110	6.9%	73%
四半期純利益	188	12.3%	30	37	3.6%	20%	245	9.0%	53%	110	125	5.6%	51%
単独 四半期純利益	101	10.3%		31	4.2%	31%	40	2.3%	18%		70	4.4%	174%

研究開発費	57	3.8%		51	4.9%	89%	129	4.7%	97%		110	4.9%	86%
単独 研究開発費	47	4.8%		46	6.2%	97%	111	6.3%	105%		100	6.3%	90%
設備投資	167	11.0%		97	9.3%	58%	304	11.1%	142%		225	10.0%	74%
単独 設備投資	50			62			99				130		
減価償却費	133	8.7%		90	8.7%	68%	262	9.6%	100%		185	8.2%	71%
単独 減価償却費	56			49			114				105		